

地元の就職増やすには？

京都工繊大の学生と移住者らが座談会

移住者を囲み学生らが意見交流をした(青野町で)



具体的には、学生は3年前の期までは京都市内の松ヶ崎キャンパスで教育プログラムを受けているが、3年の後期からは福知山市の福知山キャンパスへ活動の場を移す。そこで地元企業から講師を招いたセミナーやインタ

学生の専門分野を地域活性へ

地元で就職して地域の産業を支える若者を増やそうと、京都工芸繊維大学(京都市左京区、森迫清貴学長)が今、府北部を対象エリアとして取り組みを始めている。府北部に理工系やサービス経営人材の育成拠点を置くことで地域活性化を図り、いずれば若者定着につなげたい考え。13日夜には「綾部地域連携室」を置く青野町の北部産業創造センターで「大学と地域の連携」をテーマにした座談会を開き、今後の方向性を模索した。

【重本晋平】

文部科学省が提唱する「事業」に採択された同創生テックプログラム「地(知)の拠点」大学では2016(平)をスタート。府北部学による地方創生推進成28)年から、「地域」に人材育成拠点を設置することにより

ーシップなどに取り組みほか、理工系の専門知識を生かして課題解決型の実践的・能動的なプログラムにも挑戦する。「綾部地域連携室」も大学と地域が連携していくための拠点の一つだ。

今回、地域連携を模索する目的で開かれた地域住民との座談会では、住民側の代表としてそれぞれ数年前に市外から移住した3人が出席。同大学の学生のほか、事務職員や教員らも加わって率直な意見交換を行った。

住民側からは「過疎化が進んでいる地域の小学校を絡めたプログラムが出来ないか」「ま

も何かプロジェクトが出来たら」といった積極的な声が聞かれた。地域創生テックプログラム長を務める桑原

教授は、「農業×テクノロジー」などキーワードは見えてくるが、今ある地域課題と示した。

見交換を行った。

住民側からは「過疎化が進んでいる地域の

小学校を絡めたプログラ

も何かプロジェクトが出来たら」といった積極的な

教授は、「農業×テクノロジー」などキーワードは見えてくるが、今ある地域課題と示した。